

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年9月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872200290		
法人名	社会福祉法人 すはま会		
事業所名	グループホーム 陽だまり	ユニット名	
所在地	〒314-0012 茨城県鹿嶋市平井1350-332		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年9月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872200290&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年4月12日	評価確定日	平成24年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの利用者が集団生活の中で安全に過ごせるよう援助しています。 外出行事や家族遠足を実施し楽しい思い出となるよう支援します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

傾聴ボランティアを受け入れ、利用者が職員だけでなく外部の人に思いを話せる機会を設けているほか、タクティールケアのボランティアを受け入れ、安らぎが得られる機会を提供しており、家族等からは感謝の言葉が多く聞かれている。 外出の機会を多く設け、季節に合わせた外出が楽しめるよう支援をしている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと安心のできる環境で楽しい毎日を仲間と過ごす」の理念を毎日復唱し、目につく所に紙を貼り、共有し、実践に繋げています。	「ゆったりと安心のできる環境で楽しい毎日を仲間と過ごす」との事業所独自の理念を掲げ毎朝の朝礼時に復唱して共有を図り、利用者がゆったりと安心して過ごせるよう実践に取り組んでいる。	管理者や全職員で話し合い、事業所が地域の一員として果たす役割を考慮しながら、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の生活発表会の招待に出掛けたり、併設のデイサービスの幼稚園・保育園交流会に参加しています。	保育園から招待を受け遊戯や劇を見に行ったり、併設する通所介護事業所に保育園児が太鼓の演奏に来所した際には観覧をしている。地域の幼稚園や保育園から運動会の招待を受け、利用者は職員と一緒に見物をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会の協力を得て、認知症の傾聴ボランティアを養成して頂き交流しています。また、タクティールボランティアを受け入れ、交流しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者やサービスの実際を報告しています。委員さんの力添えで鹿嶋市社会福祉協議会で傾聴ボランティアを養成してもらい支援していただいています。意見交換の中からサービス向上に活かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1回利用者や家族等、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、ボランティアアドバイザーで開催している。会議では事業所の利用状況や行事報告をしているほか、市職員からお知らせがあったり次回開催日の確認をしている。また、家族アンケートの集計結果を報告するとともに出した意見や課題を委員と話し合っており、アンケートで出た「食事や外出に力を入れて欲しい」との意見を受けて外出の年間計画を見直し外出の機会を多くしたり、行事食の提供を行うなど、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と日頃から密に連絡を取り、協力関係を築くようにしています。	市担当者とは運営推進会議や電話、管理者が市役所に出向いた際に事業所の空き状況を報告したり、介護保険制度や要介護認定更新申請に関する相談などを行っている。 地域包括支援センターから一人暮らしで認知症のある利用者の受け入れ依頼があり、事業所も協力して受け入れるなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の電子錠は開錠しています。現在 拘束をしている方はおりません。	身体拘束排除に向けたマニュアルをパソコンに保管しており、職員が自由に閲覧できる状態にはなっていないほか、研修を実施するまでには至っていない。 安全ベルトの使用など、やむを得ず身体拘束をしなければならない利用者については、事業所独自に使用目的や期間等を記載した安全配慮計画書を作成し、利用者や家族等に説明して同意を得ている。 職員は身体拘束解除に向けて毎月話し合い、身体拘束を解除する時のみ記録に残しているが、毎月の検討記録を作成するまでには至っていない。 玄関は施錠せず、利用者がいつでも外に出られるようになっている。	身体拘束排除に向けて全職員がいつでもマニュアルを確認できるよう改善するとともに、研修を実施することを期待する。 毎月実施している身体拘束解除に向けた検討結果は、毎回記録に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を受けています。ホーム内ではミーティングや委員会で情報交換を行なっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を受けています。ホーム内ではミーティングや委員会で情報交換を行なっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書により説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見交換をしてサービスの質の確保・向上につなげるようにしています。2ヶ月に1回御家族に要望書を送り意見を求めています。	玄関に意見箱を設置しているほか、2ヶ月に1回広報誌と一緒に要望書を家族等に送付したり、家族アンケートを実施して意見や要望を汲みあげるよう努めている。 利用者や家族等から出た意見等は利用者の個別のケアに関するものが主だが、管理者や職員は汲みあげた意見等を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課面接の時に聴いて、反映させています。	管理者や法人の課長は年1回職員と直接話す機会を設けるとともに、新規採用職員には現任職員より2回多く面接を行い話し易い体制を整えている。 月1回管理者と法人の課長が出席する全職員参加の会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。 職員より「収納場所が少ないので畳の部屋に押入れを作って欲しい」という意見を受け、担当職員が協議書を作成してデザインや大きさなどを具体的に提案し、予算と合わせて話を進め現在造成中である。 加湿器や洗濯機が壊れ「追加購入してほしい」との職員の意見を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課面接で職員の希望・やりがい等を聞き取り、職場の環境・条件の整備に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保やOJTも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の事業所に行き情報交換等を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	チームケアで利用者の望んでいること、喜ぶこと、本人の安心出来ることを探し援助できるよう努めています。本人の不安が軽くなるように話を聞き、安心できるように支援する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初、御家族等より話を伺い、受け止めながら、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、御家族等の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、対応に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人として共に過ごし、喜怒哀楽を共にしながら、本来の個性や力の発揮、暮らし方の意向を知る為に職員間で共通意識を持ち関係を作っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が良くなるように間に入り調整・助言する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と外出される方もいます。こまめに面会に来て下さる御家族もいます。本人の希望により御家族に電話をし面会に来て頂く事もあります。	利用者の希望を家族等に伝え、家族等の付添いで馴染みの喫茶店に行けるよう支援している。 家族等の面会時に利用者から「孫も連れてきてほしい」との話が出て孫に面会に来てもらったり、孫の誕生会に招待され出かけている。 利用者や家族等から新たに馴染みの人や場所の情報を得た場合は、申し送りノートに記載するほか、朝礼で申し送りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを大切にし、見守りする。援助が必要な時は関わり支援する。 日中は全員が居間で過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えをした利用者に対し、本人の状況、習慣や好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え環境や暮らし方の継続等に配慮して貰えるように働きかけました。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	チームケアで利用者の望んでいる事を話し合い本人本位に検討している。	職員は利用者から直接話を聞き、思いや意向を把握するよう努めている。 意志表示が困難な利用者については、歌を口ずさむ場合は歌が好きであると判断してカラオケができるよう支援するなど、日々の暮らしの中で思いや意向の把握に努め、申し送りノートに記載して朝礼で申し送りをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い情報収集をしている。なかなか利用者の生活歴を知っている人が居ないため、把握が難しい。	/		/
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を使い情報収集をし、出来る力・分かる力を日々の中で見つけ、共通認識を図っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	委員会で課題を話し合い現状に合った介護計画を作成している。	2ヶ月に1回家族等に要望書を送付して意見や要望を確認しているほか、電話で家族等に利用者の状態を伝え、介護計画作成のためのカンファレンスへの参加を促している。 家族等がカンファレンスに参加できない場合は、電話で意見等を聞いている。 介護計画は6ヶ月毎に見直しているが、モニタリングを実施するまでには至っていない。	モニタリング表を作成し、定期的にモニタリングを実施することを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に当番が日々の記録を記入、特変がある時は別紙に記入。職員が情報を共有して介助している。「連絡ノート」「伝票」を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により併設のデイサービスの生き生きジムに通い体力維持に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの方々に訪問して頂きお互いに有意義な時間を共有しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療を続けています。(内科・眼科・歯科・整形外科)	利用者の多くが家族等の都合で遠方より転居してきているため、入居前のかかりつけ医ではなく協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。 協力医療機関にない診療科については、近隣の医療機関を受診している。 年2回家族等に近況報告をする際に受診結果を報告しているが、利用者の状態に変化があった場合は随時家族等に手紙で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師に異常に気づいた時は伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症がある為最小限の入院期間になるように病院関係者、家族と相談しながら支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合いをし、利用者の現状を伝えながら、職員全員で状態に合った援助を行っています。	利用者の身体機能が低下した場合や要介護認定更新時の認定調査立会いのため家族等が来訪した際に終末期の意向を確認しているほか、2ヶ月に1回家族等に送付している要望書で看取りの希望を確認している。 看取りマニュアルや看取りアセスメント、看取り指針、看取り同意書を整備するとともに、職種毎の役割を明文化しているが、研修を行うまでには至っていない。	看取りマニュアルを活用し、全職員を対象に重度化や終末期に向けた研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を受けている。 法人内に看護師がいるので連絡し、すぐに来てもらっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で総合訓練、災害通報訓練を定期的に行っています。	年2回消防署立会いの避難訓練を実施しているが、反省会を開催して課題を話し合うまでには至っていない。 近隣住民も高齢などの理由で協力依頼は困難だが、餅つき大会や夏祭り等で交流を図っている住友金属の独身寮があり、緊急時には協力が得られることになっている。 水を入れるだけで食べられるアルファ米や飲料水、毛布を備蓄しているほか、徒歩1分の所にある同一法人他施設で備蓄品を管理しているが、事業所にはそのリストがない。	避難訓練後に反省会を行って課題を話し合い、次回の避難訓練に活かすよう取り組むことを期待する。 避難経路が階段であり、高齢で車いすを使用している利用者もいることから、身体状況に合わせた避難経路を確保することを期待する。 緊急時の対応が円滑にできるように、同一法人他施設で備蓄している物品のリストを事業所でも保管し、必要な物品をいつでも依頼することができるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修を受けている。個々に合った居室にし、一人一人の人格を尊重し、又、各自居室にトイレ・洗面台もあり、プライバシーの確保が出来る。声の大きさ、言葉遣いに気をつけ一人ひとりの性格に応じて接している。	職員は利用者の人格を尊重し、利用者の名前への呼び方や誇りを損ねない声かけに注意している。 プライバシー保護マニュアルを整備し、職員がいつでも見られるようになっている。 利用者の個人情報使用に関して、利用者や家族等の同意を得ているほか、個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の出来る利用者には言葉で聞き取り、出来ない利用者にはコミュニケーションをとりながら、自己決定が出来るように働きかける。傾聴に心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを把握して希望にそって援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな帽子、洋服、小物等でおしゃれを楽しめるよう支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さん一番楽しい時間なので、常食を食べることが出来ず、刻み食の方にも彩りを良くし、美味しく召し上がって頂けるよう提供しています。	運営母体の特定有料老人ホームの栄養士が献立を立て、その特定有料老人ホームから調理済みの食事が届けられている。 栄養不足にならないように午前のおやつ以外の時間以外に豆乳を昼食前に提供している。 高齢化に伴い利用者は配膳や下膳はできないが、できる範囲でテーブル拭きや林檎の皮むきなどを行っている。 2ヶ月に1回外食を支援しているが、行けない利用者には店屋物を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作った献立に添って提供しています。一人ひとりの状態に合った支援をしています。お茶を嫌がり飲まない方には、アクエリアスを提供し、水分量が確保出来るよう援助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを実施。夕食後は、義歯の方は洗浄液に浸し、朝まで預かります。 うがいが出来ない方一名はガーゼで口の中をきれいにし、清潔を保っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位のとれる人はトイレ・ポータブルトイレで排泄介助、トイレの場所が覚えられない人には定時にトイレの声かけ、立ち上がった時声かけをし、失敗を減らすよう自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表やセンター方式シートで24時間の排泄状況を確認し、パターンを把握している。 失禁してしまった場合は各自の居室のトイレに誘導し、他の利用者に気付かれずに交換するよう配慮している。 居室にトイレを備え付けているが、体調不良時はベッド脇にポータブルトイレを置き、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し排便コントロールを実施。 食事は野菜を沢山使い、10時のおやつにはフルーツヨーグルトを召し上がって頂いています。1名の方はオリーブオイルを使用し、排便コントロールに繋がっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴実施し、ゆっくりと入浴して頂いています。 薬湯・菖蒲湯・ゆず湯をとりいれています。	入浴は週3回を基本としているが、希望にそって併設する通所介護事業所の風呂も利用することができ、毎日の入浴も可能となっている。 入浴を拒む利用者には時間をかけて何度も声をかけをし、入浴ができるよう支援している。 入浴剤を使用したり菖蒲湯や柚子湯を取り入れ、季節を感じながら入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員、間違いなく服薬出来るよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみへの支援。嗜好品を楽しめるよう、周囲の利用者への配慮をしながら支援しています。りんごの皮むきや洗濯たたみ等、力を活かした役割の支援を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援の日、数名の利用者でドライブや買い物、花見、外食等に出掛ける。家族遠足として、3名の御家族とボランティアの方の協力を得て、9名全員で外出を実施しました。	年間外出計画を立て、法人の車を利用して桜や菖蒲、コスモスの観賞に出かけたり、鹿島神宮参拝や道の駅などに出かけられるよう支援している。 家族等や傾聴ボランティアの協力を得て全利用者が参加し、大洗水族館に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っている方は4名。買い物に出掛け支払いする方は3名です。 鹿島神宮やショッピングセンターで娘さんやひ孫へのプレゼントを買ったり、花を購入し育てています。買物を楽しみにされています。 会計をする時は見守りをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話を取り次いだりして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が清潔で皆さんが気持ちよく過ごして頂けるよう気を付けています。 季節の花を飾っています。	廊下や居間などに椅子を設置し、利用者がいつでも休めるよう配慮している。 居間から見えるベランダではヒヤシンスやラベンダー、マリーゴールド、ビオラ、クロッカスなど季節の花を栽培している。 居間にソファを設置し、利用者は普段から使用して寛いでいる。 居間に設置している畳部屋を活用してボランティアによるタクティールケアを週3回実施しており、利用者は笑顔でボランティアとの会話を楽しんでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やソファや椅子が置いてある。廊下にベンチがあり、自由に過ごすことができます。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、テレビ等が置いてあり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	居室にはベッドやクローゼットが備え付けられているほか、利用者の自立を促すため洗面台やトイレを設置している。 利用者は衣装ケースや時計、髭剃り、タンス、テレビなどを持ち込み、落ち着いて過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレがあり、自立した生活を送っています。トイレが認識出来ない人にも自室のトイレで安全に排泄が出来るよう誘導、援助を行っています。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 陽だまり

作成日 平成24年9月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の作成	地域密着型サービスの意義を踏まえ全職員で共通の認識をもち実践につなげる。	GH運営会議等で全職員で話し合い理念を決め、共有する	平成25年3月
2	5	身体拘束排除に向けて全職員がいつでもマニュアルを確認できるようにする。研修をする。身体拘束解除に向けた検討結果を毎回記録に残す	全職員がいつでもマニュアルを確認できるようにする。研修の実施。身体拘束解除に向けた検討結果は記録に残す	マニュアルは事務所におく。研修は定期的実施する。記録は4月より実施しています。	平成25年3月
3	10	モニタリング表を作成し、定期的にモニタリングを実施する	履歴にモニタリングの欄を設け、6ヶ月毎に実施する。	履歴にモニタリングの欄を作る	平成25年3月
4	12	看取りマニュアルの活用ができていない	全職員を対象に重度化や終末期に向けた研修を実施する。	マニュアルは事務所におく。研修は定期的実施する。	平成25年3月
5	13	身体状況に合わせた避難経路を確保する。同一法人他施設で備蓄している物品のリストを事業所でも保管し、必要な物品をいつでも依頼することができるよう取り組む	法人と相談して、非難経路を確保する。物品リストを保管する。	同一法人より意見を聞く。物品リストを事務所に置き、全職員が共有する。	平成25年3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。